

2022 年度

卒業予定者調査（面接・筆記試験の実態調査）の結果報告

【対象：2022 年度卒生】

調査期間	2023 年 1 月 4 日～1 月 19 日
調査方法	Google フォーム
調査対象	鎮西学院大学 2022 年度卒業予定者
対象人数	114 名
回答数	100 名（回答率 87.7%）

① 就活をした学生の割合

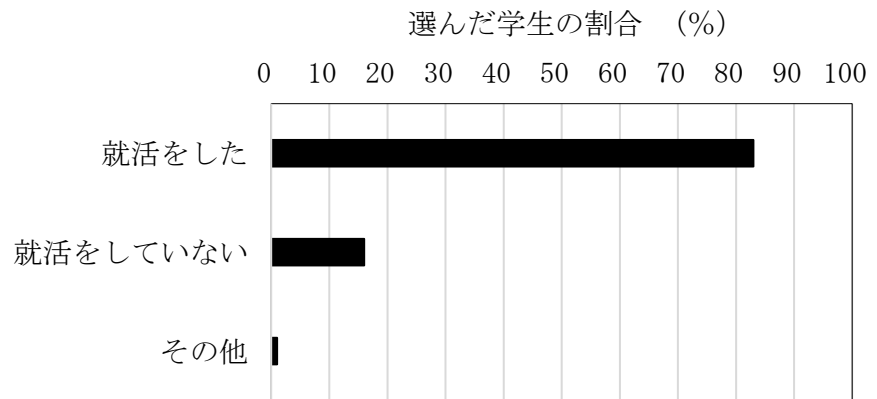


図1 就活をした学生の割合 (N=100) ※単一回答

卒業予定の学生に就活をしたかどうか質問したところ、8割以上は何らかの就活をしていたが、16%の学生は全く就活をしていなかった。

② 応募した企業の規模

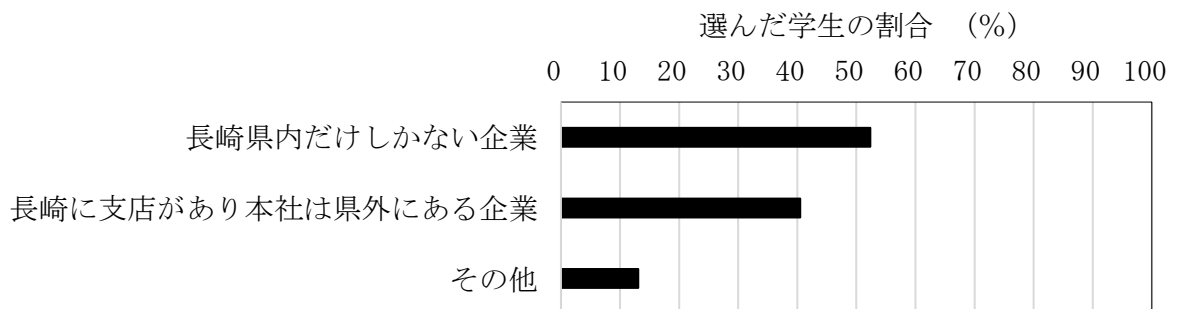


図2 応募した企業の規模 (N=84) ※複数回答

約5割の学生が県内県外だけしかない企業に応募しており、本社が県外にある企業に、4割程の学生が応募していた。この中には、県内だけしかない企業にも応募し、本社が県外にある企業にも応募した学生もいる。

③ 求人の情報源

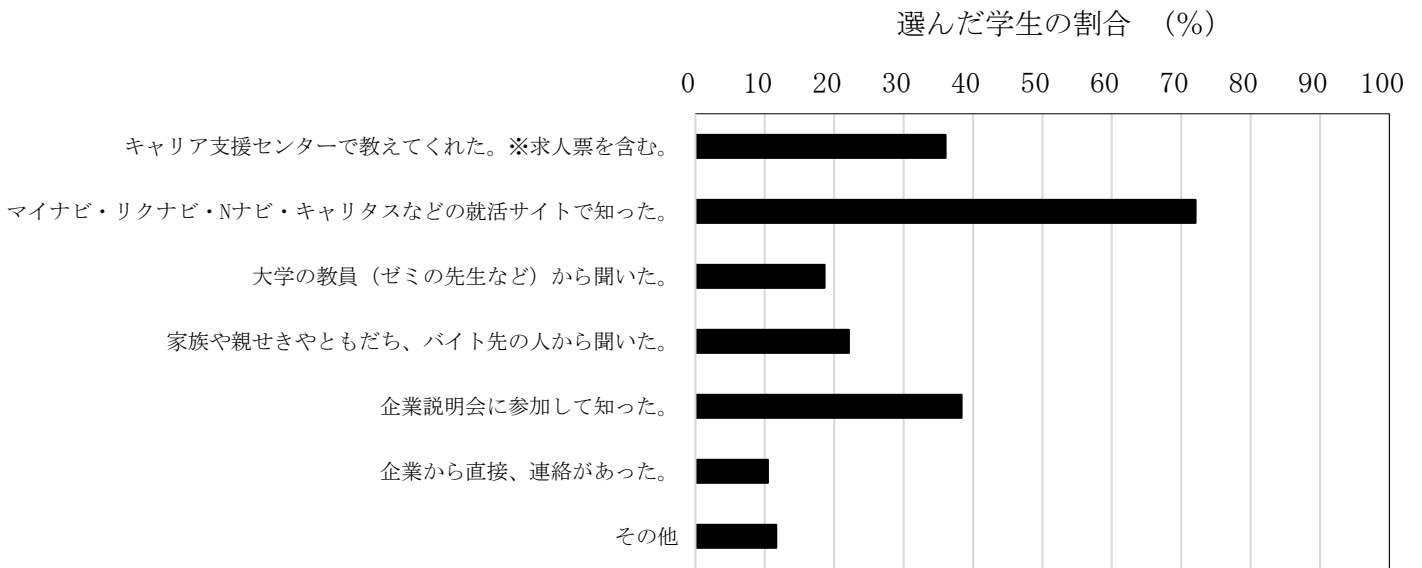


図3 求人の情報源 (N=86) ※複数回答

本調査を行ったのは、まずこれらのデータを知りたかったためである。

「キャリア支援センターで教えてくれた」は36%であった。この割合にはキャリアにある求人票を見て応募した学生を含んでいる。

そして「就活サイトで知った」が72%もいた。本学では就職活動スキルという授業で日本人にはマイナビを登録させてきたので、この回答が多いのは当然かもしれない。

また企業説明会で求人を知った学生も4割以上おり、これも同授業で「説明会への参加」を課題としてきたことが主な要因と考えられる。

④ 筆記試験で出題された問題

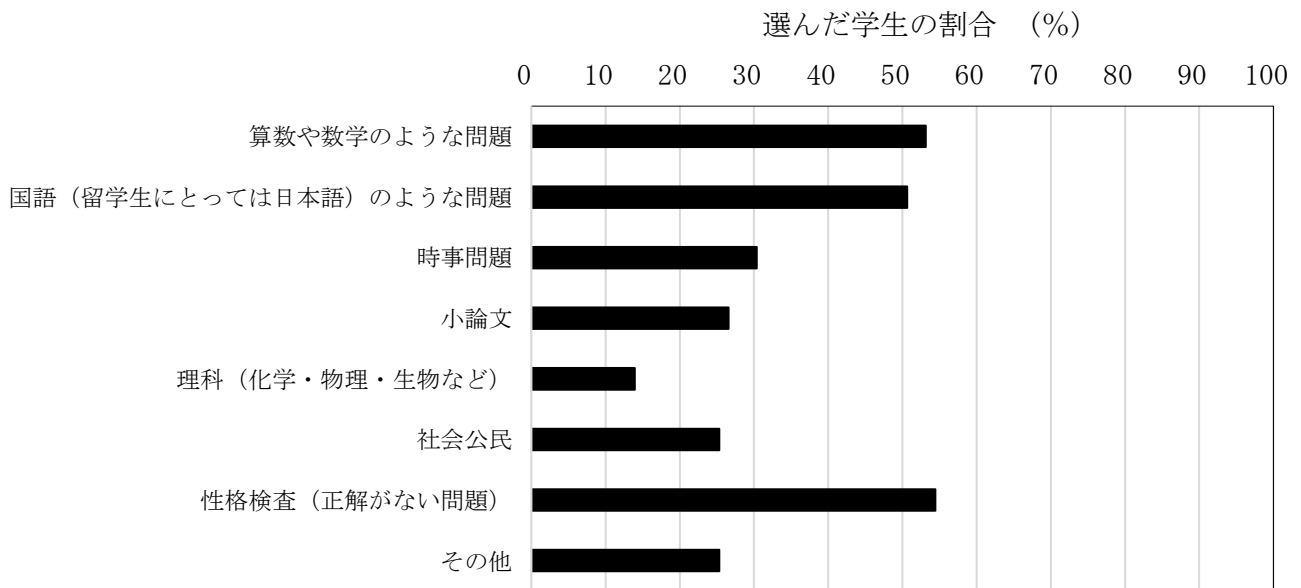


図4 筆記試験で出題された問題 (N=79) ※複数回答

性格検査はいわゆる「適性検査」であり、これが多いのはある意味当然といえる。

そして能力検査の中で最も有名なSPIでは「国語のような問題 (言語分野)」と「算数・数学のような問題 (非言語分野)」とが出題されるため、この2つの回答が多いだろうと予想していた。そしてその2つは予想どおり5割以上の学生が受験していた。

次に多く出題されていた分野は「時事問題」で、約3割の学生が受験していた。

また「小論文」と「社会公民」はともに4分の1程度の学生が受験しており、これらの準備も欠かせないといえよう。

鎮西学院大学での新カリキュラムでは「就職試験対策講座」も開講されるため、これらの結果も授業計画の参考にさせていただきたい。

⑤ 面接の形式

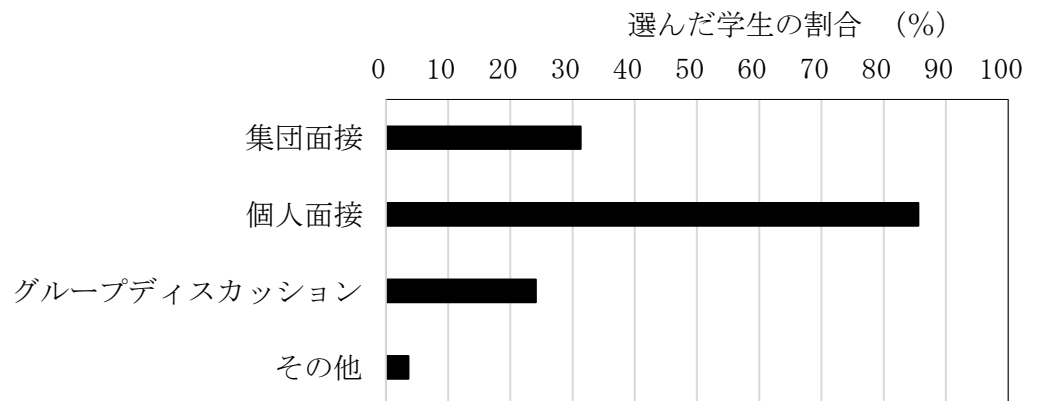


図5 面接の形式 (N=83) ※複数回答

面接に関しては、「個人面接」が85%を上回った。これは当然の結果で、個人面接を選ばなかった学生はそのプロセスまでまだ進んでいない可能性もある。つまり個人面接は必須と考えるべきだ。

「集団面接」がどれくらいの割合で実施されているかも、全国的なデータがないため非常に興味深く、2021年度の結果同様に3割程度の学生が「集団面接」を経験していた。2年連続で同じような数値だったためにデータの信頼性が高まったといえる。

このことから、「就職活動スキル」において「集団面接」対策にも力を入れていく必要があるかもしれない。

一方で「グループディスカッション」を経験した学生も2割以上おり、これも「就職活動スキル」の授業で学生に経験をさせておくと効果的かもしれない。なぜなら、学生同士でグループディスカッションのトレーニングをするのは非常に困難なためである。

⑥ 面接での質問

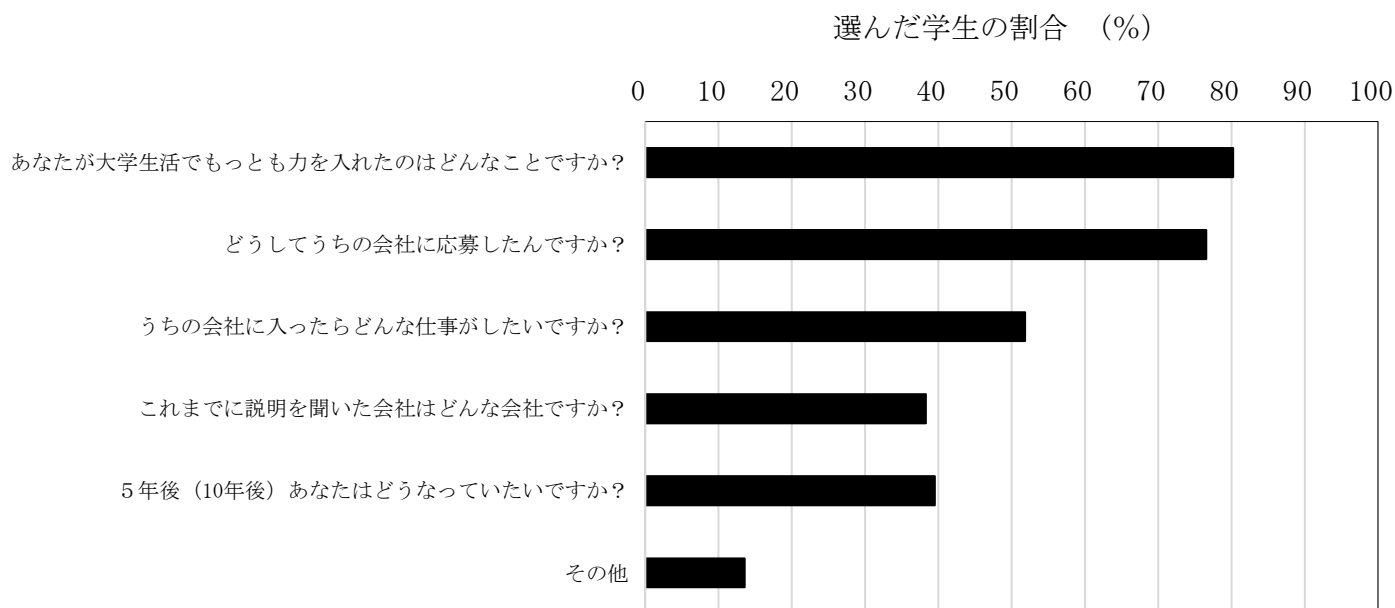


図6 面接での質問 (N=81) ※複数回答

面接でどんな質問をされるのかは、WEB上にも様々な報告がUPされているが、オーソドックスなものは上記の質問だろう。

調査前に最も多いだろうと予想していたのは「あなたが大学生活でもっとも力を入れたのはどんなことですか？」でいわゆる「ガクチカ」だった。すると予想通り8割の学生が質問されていた。そのため今後もこの質問への回答は必ず準備をして面接に挑まなければならない。

注目すべきは「その企業に応募した理由」である。これを質問された学生が76%もいた。企業側がそれを知りたいのはむしろ当然であり、「ガクチカ」と「その企業への応募理由」の2つは必ず質問されると思うべきだろう。

次に多くの学生が質問されたのが「うちの会社に入ったらどんな仕事がしたいですか」というものだった。この質問もその企業への応募理由と同様に、企業ごとに返答を変えなければならない。一夜漬けではすぐにそれを面接官に見抜かれかねない。そのため、しっかりとその企業を研究した上で、自己分析もできていなければならない。

昨年度に続き、今年度も「これまでに説明を聞いた会社はどんな会社ですか？」と質問された学生は4割もいなかった。むしろ「5年後（10年後）あなたはこうなっていたいですか？」と聞かれた学生の方が多く、この質問の準備も欠かせない。

つまり、質問項目として挙げた5つのものはどれも返答を準備して面接に挑むべきであり、それを想定して就活を進めていくことが重要といえよう。